

歴史散策 坂越地区

地区内の史跡や寺院、神社、文化財などを巡りながら坂越を楽しんでください。



5 おおさけ 大避神社



祭神は秦河勝・天照皇大神・春日大神である。神社の創立時期は明らかでないが、播磨国総社縁起によると養和元(1182)年に祭神中太神24座に列せられ、当時すでに有力な神社であったという。現在の本殿は明和6(1769)年、拝殿と神門は延享3(1746)年に再建されたものである。拝殿両脇の絵馬堂には40余りの絵馬が掲げられており、中でも享保7(1722)年の舟絵馬は最も古い舟絵馬として貴重なものである。秋に行われる祭礼、坂越の船祭は国の重要無形民俗文化財となっている。

6 宝珠山妙見寺観音堂



宝珠山妙見寺は真言宗古義派の寺院であり、寺伝では天平勝宝年間(749~757年)に行基が開基し、のち大同元(806)年に空海が中興したと伝えられている。明和6(1769)年に宝珠山中腹に建立され、「円通閣」とも呼ばれたが暴風のため大破し、享保7(1772)年に現在位置に再建された。

1 いきしま 生島樹林



周囲1.63kmの小島であるが、古来大避神社の神地として樹木の伐採を禁じられたため、原始の状態をよく保っている。樹種は大部分が常緑樹で、そのなかに落葉樹や草木が混生し、特に蔓生植物が繁茂している点の特徴である。当地方の原始景観やわが国の植物分布における温帯林の限界をみるうえからも貴重な樹林である。大正13(1924)年12月9日、国指定天然記念物となる。

7 児島高徳の墓



児島高徳は「太平記」によれば新田義貞とともに足利尊氏と戦い、妙見寺で傷を癒し各地を転戦し、晩年坂越で没したという。船岡園中に児島高徳の墓と伝えられる五輪塔があるが、五輪塔自体はその特徴から考えて近世初期のものである。

2 生島古墳



生島の西端山頂にあり、墳形は崩壊・変改が著しいが径20m前後の円墳と考えられる。大避神社の祭神である秦河勝の墳墓と言われているが、古墳時代前半期の古墳であろう。また、生島の南斜面に崩壊した横穴式石室を持つ小墳2基が存在する。

8 旧坂越浦会所



天保2~3(1831~1832)年にかけて建築され、明治まで坂越浦の会所として使用されたほか、赤穂藩主も来浦の際は休憩所として使用した。のち昭和5(1930)年に大改築され、坂越公会堂として使用された。平成5~6(1993~1994)年にかけて解体復元整備を行い建築当時の姿を整備され、一般公開されている。この建物は藩の茶屋の機能を合わせた大規模で希少な会所建築であるばかりでなく、その建築年代が明らかとなることができるとともに重要な意義を持つものである。平成4(1992)年4月30日、市指定有形文化財となる。

3 御旅所、船倉



御旅所は享保4(1719)年12月に再建されたもので、内陣1間半四方、外陣3間四方、立3間の規模を持つ瓦葺の仏教様式の建物である。祭礼に際しては内陣に神輿が安置されて神事が執り行われる。船倉は元文元(1736)年の建築で、祭礼用和船を保管している。船倉と祭礼用和船は昭和60(1985)年3月26日、県指定有形民俗文化財となる。

4 御番所跡・坂越浦城跡



坂越浦城は宝珠山麓の標高20mの上ノ山と呼ばれる小丘にあり、「播磨鑑」では城主は赤松村秀という。江戸時代にはこの場所に赤穂藩の御番所が置かれ、坂越浦に出入する船の監視に当たった。

11 光明山妙道寺



茶白山の南麓にあり、浄土真宗本願寺派に属する。享保5(1532)年に善祐門徒学西の開基という。本尊の阿弥陀仏の木造は寛永9(1632)年2月18日に高砂沖で漁網にかかったものを奥藤又次郎が受けて本堂に安置したものと伝えられる。本堂は享保19(1734)年に、山門は宝暦3(1753)年にそれぞれ再建され、鼓樓は寛保2(1742)年に、鐘樓は寛延2(1749)年に建立されたものである。

12 木戸門跡広場



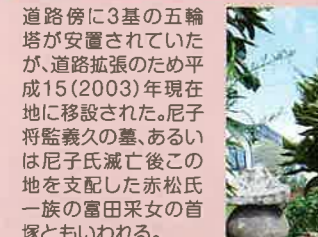
現在の高谷駐在所前にあたり、その礎石2個が今も駐在所の敷地に残っている。いつ頃設置されたか不明だが、坂越浦の治安維持のため設置され、番人を配して罪人が出た時は門を閉じて検問を強化し、夜間(亥の刻)には閉じて通行を遮断したという。

13 黒崎墓所



江戸時代に上方と瀬戸内・日本海を結ぶ西廻り航路の成立とともに、坂越は諸国廻船の入港盛んな地となった。それに伴って航海中坂越浦海域で海難や病気などによって客死するものもあって、湾の西南端黒崎の地に彼らの墓所「他所三味」(船三味)が造られた。妙道寺に残る過去帳や関係係状・取置証文などによると宝永3(1706)年~文久2(1862)年の間に判明する埋葬者は134人で、その出身地は南は薩摩の種子島、西は対馬、東は伊勢・尾張・伊豆、日本海側では丹後・越後・出羽など27か国に及ぶ。平成3(1991)年3月30日に県指定史跡となる。

17 尼子塚



道路傍に3基の五輪塔が安置されていたが、道路拡張のため平成15(2003)年現在地に移設された。尼子将監義久の墓、あるいは尼子氏滅亡後この地を支配した赤松一族の富田采女のお首塚ともいわれる。

18 ほうじゅ さいさん 宝寿山西山寺



真言宗古義派の寺院で、十一面観世音菩薩を本尊とする。山号は宝寿山、尼子山、天戸山の三説がある。開基は、天平勝宝頃(749~757年)行基によって創建され、その後空海が中興したと伝えられ、最盛時には東塔、西塔があったという。戦国期には尼子氏の祈願寺となっていたが滅亡後は消失し、元禄期には勝田新左衛門と僧侶が精舎を建立、その後元文3(1738)年に住僧有半が再興し現在に至っている。境内には天明4(1784)年銘の手洗石、参道口には同年銘の地藏石像と石灯籠がある。播州赤穂城内33カ所所置場と播州赤穂郡33観音霊場の第14番札所でもある。近くに祭神火魂神の荒神社がある。

19 ほうしょう ちょうらく 宝性山長楽寺



砂子後山の山麓にある天台宗の寺院。寺伝によれば聖武天皇の神龜年間(724~729年)に行基が遊行布教の中、この地に伽藍を建立し観世音菩薩像を安置したと伝える。聖観世音菩薩、不動明王、薬師如来の本尊を祀る。最盛期には12の坊舎、上下の大門などがあった。嘉吉の乱の兵火に遭い焦土と化し、1小坊舎を残すのみとなっていたが、正保元(1644)年、住僧の円盛が中興して現在に至る。境内には鹿島神社・稲荷社がある。また、神護寺にあった木造の不動明王立像、毘沙門天立像は昭和56(1981)年、市の文化財に指定されている。播州赤穂城内33カ所所置場と播州赤穂郡33観音霊場の第13番札所でもあって、播磨西国観音霊場第9番札所、播州薬師霊場第19番札所でもある。

14 うんこくさんじょうらくじ ごゆうぜんじ 雲谷山常楽寺・吾有禅師の墓



赤穂郡大領高屋越前二郎為経の常楽庵にはじまり、その後子孫の高屋先生源景義が正中元(1324)年に京都の東福寺の深深首座に請うて禅院とし常楽寺と改号しよく栄えたという。しかし天文年間(1532~1555年)に信徒が改宗したり、慶長(1596~1615年)の初めに坂越荘三カ村を領した浮田安心がたとえ寺社領であつてもみだりに山林田畑を押領したため衆僧離散して廃寺となつた。その後、元禄15(1702)年、明和7(1770)年の二度にわたり小堂が再建される。境内には吾有禅師の墓がある。吾有禅師は本名は松本和右衛門で、もと高松藩士であつたが剃髪して吾有玄道といつた。坂越では妙道寺に住み多数門人に和歌や絵画、禅道を教えた。文化11(1814)年に讃岐で没するが、門人らが常楽寺境内に墓石を立て遺品の鉄鉢と十徳を葬る。

20 たかとりやま 高取山古墳群



高取山の山裾から中腹にかけて、21基の横穴式石室墳と6基の積石塚が分布していたが、周辺の土砂取りで8重山古墳とともに一部消失した。山裾にある横穴式石室墳の一部は内部構造の残りもよく、墳丘も原型を留めている。また、鉄道を挟んだ向かいの高伏山にも古墳3基で構成される高伏山古墳群がある。

15 高瀬舟船着場跡



高瀬舟は18世紀には坂越村に着岸していたことが知られており、以後内陸部との流通の重要な役割を果たした。内陸部の薪などの物資を坂越で陸揚し、大八車などで鳥井坂を越して坂越港へ運び大阪方面への廻船に積み込んだという。

16 しょうん こうれん 紫雲山光蓮寺



浄土真宗本願寺派の寺院。本尊は阿弥陀如来。創建は大永3(1523)年、開祖は僧宗玄、寛文元(1661)年に寺号紫雲山となっている。



歴史と自然と美しい町並み 赤穂市坂越地区

坂越は赤穂市南東部、坂越湾に面する港町です。坂越浦に浮かぶ原生林の島「生島」、緑豊かな山々、清らかな「千種川」など美しい自然に囲まれています。また伝統的建物群による風情ある町並みが今なお残る魅力ある町です。

赤穂市役所 区画整理課
〒678-0292 兵庫県赤穂市加屋81番地
TEL 0791-43-6829
FAX 0791-43-6892